

1. 現状・問題

- 1. 学内システムが使いづらい。
  - ・ポータルが使いづらい、見づらい
  - ・提示した情報が見れているか分かりづらい
  - ・タブレットやスマホ対応が不十分

1. 理想像

- ・スマホで見れる手軽さと見やすいUI。
- ・情報の伝達状況が確認できる。

1. 要因・背景

- ・PCとスマホの見せられる情報量の違い。PC>スマホ
- ・ブラウザとアプリの通知方式の違い。
- ・既存サービスのアプリ化が難しい。

2. 現状・問題

- 2. 部署内外、教職員間のデータ共有が出来ていない。
  - ・データやノウハウの偏在／散在
  - ・データ作成や管理体制の部署毎の不一致による管理工数増加
  - ・データの持ち運びによるセキュリティ面のリスク

2. 理想像

- ・全員が同じシステムを利用して仕事をする。
- ・データ全学共通で保持／管理し、必要な時に必要なデータを参照できる（もちろん制限はあり）

2. 要因・背景

- ・組織の縦割り意識によるデータ共有の有用性の理解不足
- ・情報の参照権限の厳格化と管理。

3. 現状・問題

- 3. 紙媒体管理による意思決定／処理スピードの喪失
  - ・各種申請の処理に時間を要する（判子リレー）
  - ・保管コスト／リソースの増大
  - ・入力ミス等による手戻り工数の増大

3. 理想像

- ・電子決済／稟議ワークフローの導入により、紙コストと判子リレーに要する時間の削減が図られる。
- ・ある程度の入力ミスはシステムで検知できる。

3. 要因・背景

- ・費用対効果が不明瞭
- ・既存運用からの変化に対する抵抗感の払拭が不十分

# 他部署との情報共有 が上手くいかない

## 問題点

- ✓ 各部署がどのような情報を保持しているかわからない。
- ✓ 情報の中身が必要としていたものと異なることが多い。
- ✓ 情報の有効活用ができないまま偏在・散在している。

## その要因は

- ✓ 各部署でのデータ管理の方法が異なる
- ✓ 各部署で使っているシステムが異なる
- ✓ 各部署がどんな目的でどんなデータを集めているかわからない。
- ✓ データ共有の重要性が認識されていない。
- ✓ 組織の縦割り意識による保守的思想。

## 課題

- ① 自部署のデータが他部署にとっても有効だという意識がない&気づかない。
- ② 情報の共有に際し、セキュリティの担保とアクセス制御は必須。
- ③ 使いづらいと使わない。形骸化してしまうので、できる限りシンプルにする。

## 実施施策

ファイル共有システムを  
全学共通で使用することで  
課題を解決する！

- ① 情報へのアクセス状況を分析することで、どの情報が他部署から必要とされているのかを「見える化」する。

⇒気づきにつながる！

- ② 参照・編集の権限をシステム側で細かく設定できることに加え、ルールに沿った運用管理が可能。

⇒共有すべき情報を明確化できる！

⇒編集に伴う世代管理もできる！

- ③ ファイルへのパスワード付与などの面倒な操作は不要。データへのアクセスもSQLではなく、欲しいデータをチェックボックスで選択するだけ。

⇒とにかく使ってもらおう！

⇒直観的・感覚的に操作可能！

D12 No2

H：早い！

K：簡単！

J：充実！

- ✓ 部署・個人で持っていた有用なデータが集約・共有されることで、業務効率の向上やブレイクスルーのキッカケとなる。

- ✓ 節約されたリソースを新たな施策立案やサービス向上に割り当てることが可能。

## 運用後の評価・改善

- ・ ゴミ箱化を回避  
⇒ 運用後のアクセス状況を確認することで、不要なファイルやデータは除外していく。
- ・ データやファイルの構成見直し  
⇒ 運用の過程であがってくる要望等に応じて見直しを行っていく。

アクセス数への  
重み付け  
重要度=数×誰